

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490800388	事業の開始年月日	平成29年12月1日
		指定年月日	令和5年12月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ横浜朝比奈		
所在地	(〒236-0033) 神奈川県横浜市金沢区東朝比奈3-11-33		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果 市町村受理日	令和7年4月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	https://mimoza-care.com/facility/group-home/post-9
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびりとリラックスして過ごすことができる場所です。食事が手製なのでとても美味しいです。お客様一人一人の生活に寄り添い、笑顔になれるもの探していきます。コロナ対策として日中夜間とも居室と共用部に消毒液を使用し感染対策に努めています。外出レクが出来ない為季節ごとの行事を行ない職員手作りのご馳走を提供して楽しんで頂く。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和7年3月7日	評価機関 評価決定日	令和 年 月 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇利用者本位の日々の暮らし ・利用者の意思を尊重し、過ごし方は自由にしている。新聞折りや洗濯物畳などの手伝いは本人に確認をとりながらお願いをしている。習字が得意な利用者には職員が活躍の場を探したり、絵を描くことが好きな利用者には道具を用意したり、持っている力を活かせるようにしている。 ・自分でできることはゆっくりでも自分のペースで行ない、日々の暮らしが自由でゆったりとした生活であるよう一人ひとりの生活のペースを大事にしている。 ◇充実した研修制度 ・定期入社研修、中間入社者研修や階層別マネジメント研修他がある。事業所内では30分研修の年間計画のもと毎月複数の研修を行ない、テーマごとに研修報告書を作成している。職員の能力が向上することにより、利用者の生活の質の向上が期待できる。 【事業所が工夫している点】 ◇食の楽しみの支援 ・業者から冷凍・冷蔵の食材を取り寄せ、職員が調理をしている。 ・毎月行われるイベントの際は季節の行事食を作っている。3月のひな祭りには職員と一緒にちらし寿司を作り、敬老の日には利用者の大好物のハンバーグ作りをみんなで楽しんだ。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ミモザ横浜朝比奈
ユニット名	潮騒

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所前に職員と話し合い、決めた理念、7つの心を持ち共有し日々の業務に心がけている。	・事業所理念「あいさつ、ありがとう、安心安全等7つの心」を事務所に掲示し、職員は出勤時にそれを見て利用者への支援を新たにしている。 ・会議の際に理念を確認し、新人職員にも分かりやすく説明をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の為交流は減っているが、町会の参加は変わらない。近隣の方からの連絡もある。	・地域の祭に利用者、スタッフと参加して、利用者家族や孫と屋台の焼きそばなどを楽しんだ。 ・段ボール等の資源ごみを自治会の集収場に出し、自治会に協力をしている。 ・民生委員と情報交換をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の方を通して近隣の方との交流があり、ここでの運営への理解を必要としてくれる方を通して発信している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行うことができず、近況は電話連絡か挨拶のみになっている。	・町会長、民生委員、家族数名の参加を得て会議を開催をしている。 ・事業所の活動や利用者の様子を伝え、地域の情報を得ている。 ・利用者が毎日、何を食べているのかを知りたい、という家族の要望により、メニュー表を送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と介護サービス、生活対応についての情報交換や協力を築いている。	・金沢区高齢支援課の担当者とは利用者の暮らしぶりなどの説明をして協力関係が得られるようにしている。 ・行政関係の情報は金沢区役所などからのメールで入手している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設けている。年に2回の研修会を実施にて「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。ご利用者様の状態に応じて安全策の幅を広げるようすぐに話し合いを行っている。	・「身体拘束廃止等の適正化のための指針」を整備している。 ・身体拘束排除委員会を2か月に1回開催し、議事録を作成し職員に回覧をしている。 ・年に2回、30分研修を実施して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の社内研修に取り組んでおり、虐待防止について研修・話し合いを行っている。	・職員が疲労やストレスからくる不適切なケアしていないか、職員への心のケアを大切に考え、面談につなげ虐待防止に努めている。 ・原因不明のアザなどがないか注意をはらっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を受けている方がおり、後見人ご本人との相談等ができる関係がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時での相談・入居後の相談は個々に設けており、要望・説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況を手紙で伝える他にも電話連絡の機会を増やしご家族からの意見・要望を聞き、運営に反映されている。又、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し説明している。	・毎月家族に送付している「ミモザ通信」に利用者の近況を一言伝え、返事や意見を聞いている。 ・絵を書くことが好きな利用者に道具を持ち込んでもよいか。今まで飲んでいたサプリメントを継続して良いか。などの問い合わせがあった。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議・申し送りの中で意見交換を行い、業務へ反映している。	・毎日の申し送り時やスタッフ会議の中で、意見を聞いている。 ・最近は日常生活動作の低下が目立ってきているので、夜間のトイレ誘導は車椅子の使用はどうか、など介助方法の提案が多い。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が希望する。研修へ参加出来るよう承認し個々のスキル向上に努めている。又、勤務状況を把握し希望などに取り組んでいる。	・健康診断センターが事業所に来て、年に1回、夜勤者は年に2回の健康診断を受けている。診断結果の状況によっては面談をしている。 ・有給休暇を取得するように勧めている。家庭の事情などを考慮してシフトは柔軟に作成している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修へ参加しており個々のスキル向上となっている。	・年間計画を立て計画的に毎月30分研修を複数回行ないテーマごとに研修報告書を作成している。職員の能力向上に力をいれている。 ・資格取得補助金制度があり、資格取得後に一部受講料の補助があるほか、祝い金の支給がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	金沢区GH連絡会に加入しており定期的な会議にて情報は交換・助言を頂き、質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者本人の思い希望をケアプランに取り入れており、安心と安全な生活を確保できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から入居時での相談・要望を受け止め、家族との信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が望んでいることを見極め、より良いサービスが対協できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の培ってきたことを大切に、一方的にならないよう支え合う関係が築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の近状も含め、報告を行っており、又、互いの相談・要望ができる関係づくりに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できる環境を整えており、大事な時間を過ごせるよう努めている。又、馴染みの家具や写真を置いている。	・友人などの面会は家族の了解を得てから受け入れている。 ・家族の協力を得て、馴染の美容院や墓参りに行っているが、人の集中する場所は遠慮してもらっている。 ・家族と食事をしに家に戻る利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の状態を把握しながら、娯楽やお手伝い等が楽しみながら支え合って行うことができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の退去時には、何かあればいつでも連絡下さい。と伝え、相談に応じる支援を努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンス・アセスメントを定期的に行い、一人ひとりの思いや意向を尊重し、希望に添ったケアを実施している。	・普段から、傾聴を基本にコミュニケーションを多く取り、その反応から意向などの把握に努め、職員間で共有している。 ・気持ちが混乱した時はどうしたいのか、自尊心を傷つけないように言葉を選びながら話をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣を把握し、ご利用者の生活環境を踏まえながら、又、ご家族等にも情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、身体状況を見極め、日々の生活を見守っていくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者・スタッフと共に定期的なカンファレンスを行い、家族にも常に状況説明を行い、意見を共有した上でケアへの反映と作成を行っている。	・利用者と家族の意向を汲み取り、職員、医療関係者と話し合い、介護計画を作成している。 ・長期を1年、短期を半年で状態に変化があった時は家族、施設長、管理者、ケアマネと話し合い介護計画の見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきを記録し、ADL・QOLの低下防止に努め日々の業務の中でも申し送りやカンファレンスを行い、サービスの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化(認知症の進行)については、ご家族からの相談・カンファレンスによって柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りへの参加。今後も地域への行事等に参加していき、地域との交流が安心して楽しむことができるよう支援していく。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員がホームドクターの往診を受けている。 相談や必要がある時は、ご家族が往診に立ち会っている。	・訪問診療は、内科医と歯科医が月2回、施設看護師は、往診の立会いを行なっている。内科医とは24時間の医療連携がある。 ・通院は家族が付き添い、口頭で報告を受け、内容は内科医に伝えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡先の看護師とは何かあれば職員誰もが連絡を取り、相談・指示を頂く事が出来、施設看護師は定期的に健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先の病院ホーム・ドクター・看護師・施設側との連携を取り病状について相談等の情報交換を行い、早期退院ができるよう関係を築いている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化・看取りはないが、入居時に看取りへの説明をご家族に説明している。	・重度化や終末期に向けた指針があり、入所時に、本人・家族に説明し、同意書を貰っている。 ・ターミナルケアに入る時は、医師・事業所・家族で話し合い、今後のケアの方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、緊急時対応・事故発生時のマニュアル連絡網がある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震想定訓練を行っており、町内会長さんとの地域避難場所・施設情報を伝えてある。	・避難訓練は、夜間想定を含めて年2回行っている。土砂災害警戒地区になっており、消防署の指導を受けている。 ・BCPを作成し、災害備蓄品のリスト管理を行なっているが、備蓄在庫品の数が不足している。	・災害備蓄品の充実が望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は、お客様であることを忘れずに保護し、配慮するよう努めており、プライバシーの保護・入浴・排泄の研修を行っている。	・プライバシー保護マニュアル、接遇マニュアルがあり、60分研修を行っている。 ・職員は、入浴、排泄時のドアの開閉や、声掛けの声の大きさなどプライバシーへの配慮に特に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の話には耳を傾け相談や要望を受け入れ、希望に添うようにし、出来る限り自己決定が出来る支援を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状況を把握し、その方に添った生活リズム・食事等の個々に行う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時には、ご本人の希望する物を用意し、又、季節に応じた身だしなみが出来るよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状態に合わせた食事形態を取り入れ、美味しく食べて頂けるよう工夫している。又、食事時は役割分担にて配膳・下膳・盛り付け等も行っている。	・食材は業者から取り寄せキザミ、ミキサー、トロミの3種類を利用者の状況に合わせてリクエストできる。 ・利用者の要求を聞き、行事食を月1回行なっている。3月はひな祭りで、ちらし寿司を出した。誕生会はケーキでお祝いをしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取を記録しており、ご利用者の状況に合わせた形態や捕食等の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、スタッフ介入にて仕上げを行っている。週に1回の歯科往診にて口腔ケア・個々の治療にて、感染症・誤嚥性肺炎の予防にもなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人で行歩の排泄パターンを記録しており、個々の声かけ・時間誘導を行い、トイレでの排泄・出来ることは自分で行って頂き、自立支援を行っている。	・排泄介助マニュアルに基づいて排泄パターンの把握、声かけ、プライバシーへの配慮等を行なっている。 ・夜間の対応は時間で声掛けを行なっている。ポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の水分量の記録・把握をしており、状態に応じて水分量の追加・適度な運動にて出来るだけ自然排便があるように取り組んでいる。又、便秘時には医師への相談・緩下剤を使用している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の希望に添った温度。また、ゆず湯や菖蒲湯等を取り入れ、入浴を楽しめるよう支援している。体調の悪い時は無理をしない。	・入浴は週2回、午前中行なっている。入浴するメンバーは予め3名を決めて、利用者に知らせている。 ・利用者は、浴室での職員との会話を楽しんでいる。利用者が自分の過去を話すことが多い。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに応じ、疲れたり体調の悪い時は居室で休めるように支援し、いい安眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関薬局施設で薬についての相談確認が出来ており、個々対応も記録しておりスタッフにて共有に努め、変化がある時は管理者、医師、ナースに連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションへの参加、出来ることを見つけ、役割を持ちながら、食事の準備、片付け、買い物、洗濯干し、たたみ等を行い、dvd鑑賞、カラオケなどを楽しんでいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍や流行感染の為、外出は減っているが、天気の良い日には散歩やグループに分かれて、近隣の公園に行き季節の花を楽しんでいる。	・利用者の高齢化、認知機能低下により散歩できる利用者が少なくなっている。天気の良い日は室外のベンチで外気浴をする程度となっている。ユニット内の廊下を歩いたり、ベランダの洗濯物を取ってもらったりしている。	・利用者の外出ができないことから、現在行っている、体操や室内歩行等を継続し、利用者の体力維持を図ることが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に必要なものをスタッフが購入している。ご家族にもお願いしたり外出時に買い物をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話をかけたり、手紙を出したり、交流をもてるよう支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で安心な環境づくりを行っており、環境整備を年2回、会社にも行っている。音や光、温度は状況に応じて配慮している。又、季節感を取り入れた生活空間の工夫も行っている。	・リビングの壁に、利用者の書いた習字を飾っている。食事のメニューを張り出し、利用者と家族に知らせている。 ・リビングの清掃と消毒は夜勤者が、居室の換気は早番職員が行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々で自由な時間を持ち、居室で休んだり、テレビを観たり、又、ホームメイトと談話や囲碁、歌などで思い思いに過ごせる空間になっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく安心して過ごせる生活スペースを、馴染みのものや大切なもの個々に部屋の工夫がされている。	・エアコン、カーテン、ベッド、ベッドマット、チェストを事業所が備え、利用者はTV、縫いぐるみ、椅子等馴染みの物を持ってきて自分の部屋造りをしている。 ・居室担当者が、居室の整理整頓、清掃を行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設がバリアフリー対応になっており、残存機能を活かしながら、出来ることは自分でして頂き自立支援を行っている。居室、浴槽、トイレ、エレベーターにはナースコールが設置されている。		

事業所名	ミモザ横浜朝比奈
ユニット名	曙

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所前に職員と話し合い、決めた理念、7つの心を持ち共有し日々の業務に心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しておりお祭りも再開され参加。会長さん初め皆さんからの温かいうけいれをして頂いた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の方を通して近隣の方との交流があり、ここでの運営への理解を必要としてくれる方を通して発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月1回行っている。防災訓練について避難場所等の助言を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と介護サービス、生活対応についての情報交換や協力を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設けている。年に2回の研修会を実施にて「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。ご利用者様の状態に応じて安全策の幅を広げるようすぐに話し合いを行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の社内研修に取り組んでおり、虐待防止について研修・話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見制度を利用されている方はいないが、後見制度についてはいつでも行えるようご家族との距離感に応じて説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時での相談・入居後の相談は個々に設けており、要望・説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況を手紙で伝える他にも電話連絡の機会を増やしご家族からの意見・要望を聞き、運営に反映されている。又、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し説明している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議・申し送りの中で意見交換を行い、業務へ反映している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が希望する研修へ参加出来るよう承認し個々のスキル向上に務めている。又、勤務状況を把握し希望などを取り組んでいる。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修へ参加しており個々のスキル向上となっている。現在はリモート研修となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	金沢区GH連絡会に加入しており定期的な会議にて情報は交換・助言を頂き、質の向上に取り組んでいる。コロナ禍の為定期的な会議は行われていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者本人の思い希望をケアプランに取り入れており、安心と安全な生活を確保できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から入居時での相談・要望を受け止め、家族との信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が望んでいることを見極め、より良いサービスが対協できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の培ってきたことを大切に、一方的にならないよう支え合う関係が築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の近状も含め、報告を行っており、又、互いの相談・要望ができる関係づくりに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できる環境を整えており、大事な時間を過ごせるよう努めている。又、馴染みの家具や写真を置いている。現在はコロナ禍の為面会は禁止しているが手紙や電話で家族との会話は取り次いでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の状態を把握しながら、娯楽やお手伝い等が楽しみながら支え合って行うことができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の退去時には、何かあればいつでも連絡下さい。と伝え、相談に応じる支援を努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンス・アセスメントを定期的に行い、一人ひとりの思いや意向を尊重し、希望に添ったケアを実施している。必要に応じてはその日カンファレンスを行う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣を把握し、ご利用者の生活環境を踏まえながら、又、ご家族等にも情報共有に努めている。入居前の利用していたサービスの職員から情報提供して貰う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、身体状況を見極め、日々の生活を見守っていくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者・スタッフと共に定期的なカンファレンスを行い、家族にも常に状況説明を行い、意見を共有した上でケアへの反映と作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきを記録し、ADL・QOLの低下防止に努め日々の業務の中でも申し送りやカンファレンスを行い、サービスの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化(認知症の進行)については、ご家族や医師に相談しカンファレンスによって柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭りへの参加。今後も地域への行事等に参加していき、地域との交流が安心して楽しむことができるよう支援していく。コロナ禍の為現在は行事は行われていないが再開されたら参加したい。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員がホームドクターの往診を受けている。 相談や必要がある時は、ご家族が往診に立ち会っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡先の看護師とは何かあれば職員誰もが連絡を取り、相談・指示を頂く事が出来、施設看護師は定期的に健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先の病院ホーム・ドクター・看護師・施設側との連携を取り病状について相談等の情報交換を行い、早期退院ができるよう関係を築いている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化・看取りはないが、入居時に看取りへの説明をご家族に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、緊急時対応・事故発生時のマニュアル連絡網がある。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震想定の実地訓練を行っており、町内会長さんとの地域避難場所・施設情報を伝えてある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は、お客様であることを忘れずに保護し、配慮するよう努めており、プライバシーの保護・入浴・排泄の研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の話には耳を傾け相談や要望を受け入れ、希望に添うようにし、出来る限り自己決定が出来る支援を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状況を把握し、その方に添った生活リズム・食事等の個々に行う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や入浴時には、ご本人の希望する物を用意し、又、季節に応じた身だしなみが出来るよう支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状態に合わせた食事形態を取り入れ、美味しく食べて頂けるよう工夫している。又、食事時は役割分担にて配膳・下膳・盛り付け等も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取を記録しており、ご利用者の状況に合わせた形態や捕食等の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、スタッフによる介入にて仕上げを行っている。週に1回の歯科往診にて口腔ケア・個々の治療にて、感染症・誤嚥性肺炎の予防にもなっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人で行歩の排泄パターンを記録しており、個々の声かけ・時間誘導を行い、トイレでの排泄・出来ることは自分で行って頂き、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の水分量の記録・把握をしており、状態に応じて水分量の追加・適度な運動にて出来るだけ自然排便があるように取り組んでいる。又、便秘時には医師への相談・緩下剤を使用している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者の希望に添った温度。また、ゆず湯や菖蒲湯等を取り入れ、入浴を楽しめるよう支援している。体調の悪い時は無理強いをしない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに応じ、疲れたり体調の悪い時は居室で休めるように支援し、いい安眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関薬局施設で薬についての相談確認が出来ており、個々対応も記録しておりスタッフにて共有に努め、変化がある時は管理者、医師、ナースに連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションへの参加、出来ることを見つけ、役割を持ちながら、食事の準備、片付け、買い物、洗濯干し、たたみ等を行い、DVD鑑賞、カラオケなどを楽しんでいる。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やグループにわかれてドライブに出かけている。又、ご家族の面会時にも散歩に出かけている。コロナ禍の為現在は行われていない為行事レクなどに力を入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々に必要なものをスタッフが購入したり、一緒に買い物、お手伝いをしている。現在はコロナ禍の為外出出来ず、職員又は家族に購入して貰っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話をかけたり、手紙を出したり、交流をもてるよう支援を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で安心な環境づくりを行っており、環境整備を年2回、会社にても行っている。音や光、温度は状況に応じて配慮している。又、季節感を取り入れた生活空間の工夫も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々で自由な時間を持ち、居室で休んだり、テレビを観たり、又、ホームメイトと談話や囲碁、歌などで思い思いに過ごせる空間になっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく安心して過ごせる生活スペースを、馴染みのものや大切なもの個々に部屋の工夫がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設がバリアフリー対応になっており、残存機能を活かしながら、出来ることは自分でして頂き自立支援を行っている。居室、浴槽、トイレ、エレベーターにはナースコールが設置されている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ横浜朝比奈

作成日 令和7年3月20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	19	家族会を開催できていない	2025年度夏に家族会を実施する。	報告資料(レクレーション画像と行事報告) 昼食は弁当	1ヶ月
2	16	災害対策 備蓄品の整備	2025年5月末までに 備蓄品の購入 ・食材 ・調理器具 ・ライト類 ・排泄関連 ・等	BCPのファイル内の備品の 見直しも含め準備する。	2ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。